

「京都を学ぶセミナー洛西編」第7回（開催報告）

2020年12月8日
京都学・歴彩館
075-723-4835

2018年度から開始した「洛西の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【洛西編】」第7回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

- 日 時 2020年12月8日（火）13:30～15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 175名
- 内 容 講 演 京都府立大学大学院教授 古田 裕三
「竹の歴史・伝統工芸から竹を科学する」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

第7回セミナーでは竹の科学について講演があった。竹は生活の道具や一部として様々な用途に用いられてきた。しかし、高度成長期以降、竹は利用されなくなり放置された竹林が西日本を中心に様々な社会問題をもたらしている。本講演では放置竹林問題の解決の一助として、様々な観点から竹の科学的性質が紹介された。

竹のあらゆる応用利用の基礎を築くことを目的として、竹の種類、生態や構造、強度的性質、組織構造、炭の吸着性などについて解明された。その結果を背景に職人の伝統技術を科学の言葉で伝承する試みが紹介された。そして、洛西など古くから竹が関わる地域の工芸品や工芸技術に関して科学的裏付けを持った標準化（規格化）指標を作成するなどしてブランド化し、他地域の製品や他材料製品等との差別化を図っていくことの重要性が指摘された。

「木の利用の多様性に驚いた!」、「竹の問題や竹の利用が良くわかった」、「竹の特性、利用の仕方等、竹の知識を深めることができました」、「多様な視点からの考え方のヒントをいただきました」、「すべての材料の生産、使用においてエネルギー使用量、CO₂排出量など地球全体でのバランスを考えることが大変大事であることを学びました」など参加者から好評を博した。

